

課題と論点の整理

アンケートの結果の整理

○生活道路における取組みについてのアンケート調査結果を整理。

【調査内容】

交通安全意識等に関するアンケート調査結果(平成21年度)

- 内閣府が実施した国民に対する交通安全に対する意識やニーズ等のアンケート調査

回答数: 2072サンプル(インターネットアンケート)

あんしん歩行エリア実施地区へのアンケート調査(平成22年度～)

- あんしん歩行エリア地区のうち、事故抑止効果があった地区、多数の対策を実施した地区(156地区)への取組み内容や課題・工夫点についてのアンケート調査

回答数: 156地区(回収率100%)

物理的デバイスの設置に関するアンケート調査(平成26年度)

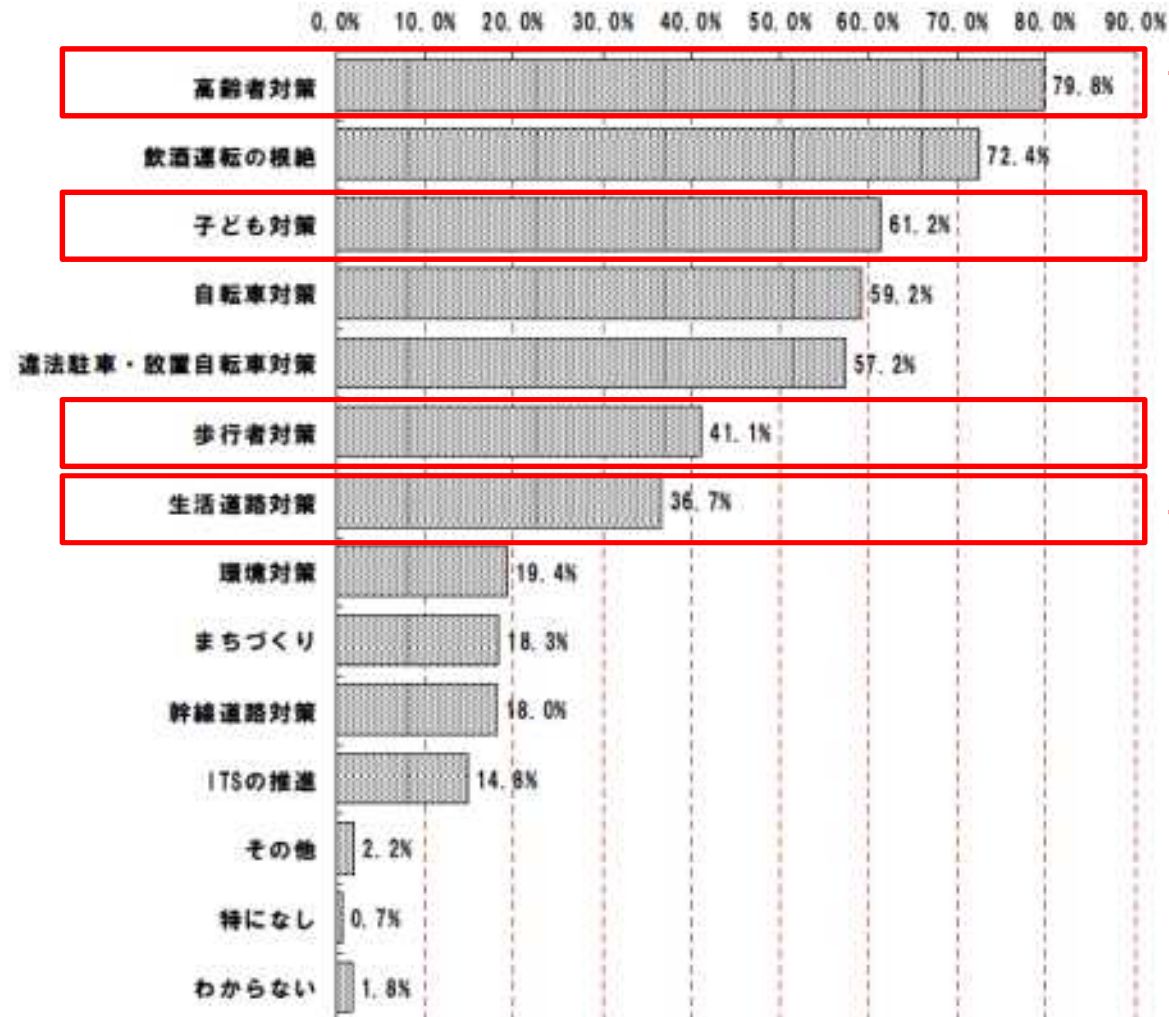
- 全市区町村(1741)への物理的デバイス※(ハンブ、狭さく、シケイン、スムーズ横断歩道)のそれぞれの検討状況や設置における課題、設置がうまく進んだ要因等についてのアンケート調査

回答数: 1739市区町村(回収率99.9%)

※アンケート実施時には「物理的デバイス」を「速度抑制施設」として調査

○生活道路に関連する対策への国民ニーズは高い。

■交通安全対策で重要なキーワード



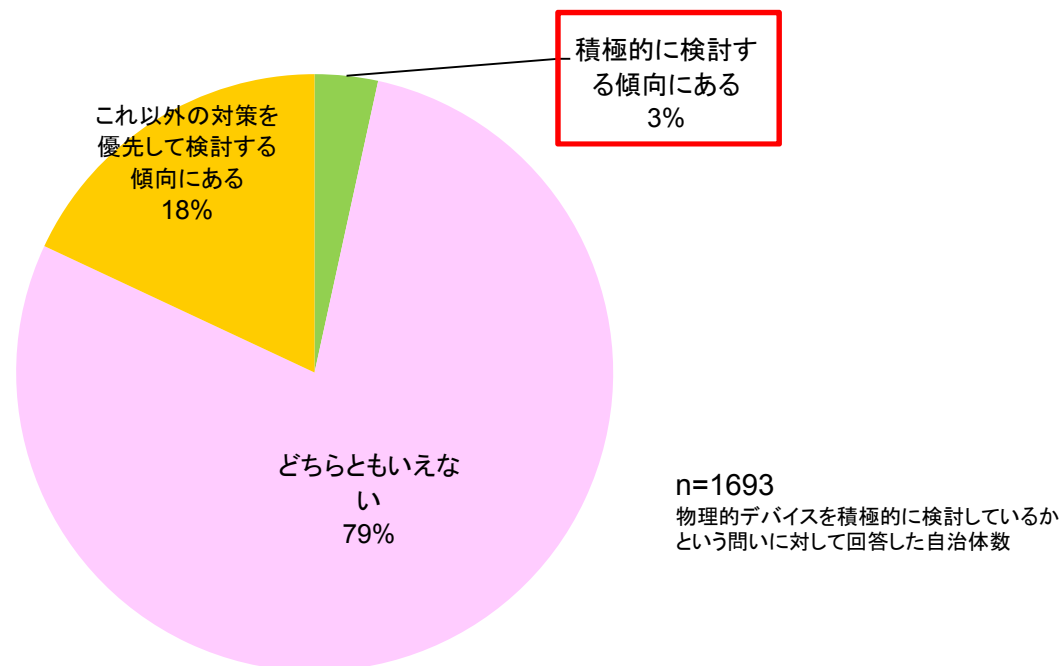
生活道路に
関連する対策

n=2072
アンケート回答サンプル数

物理的デバイスの検討状況

○物理的デバイスを積極的に検討している自治体は約3%である。

■物理的デバイスの検討状況



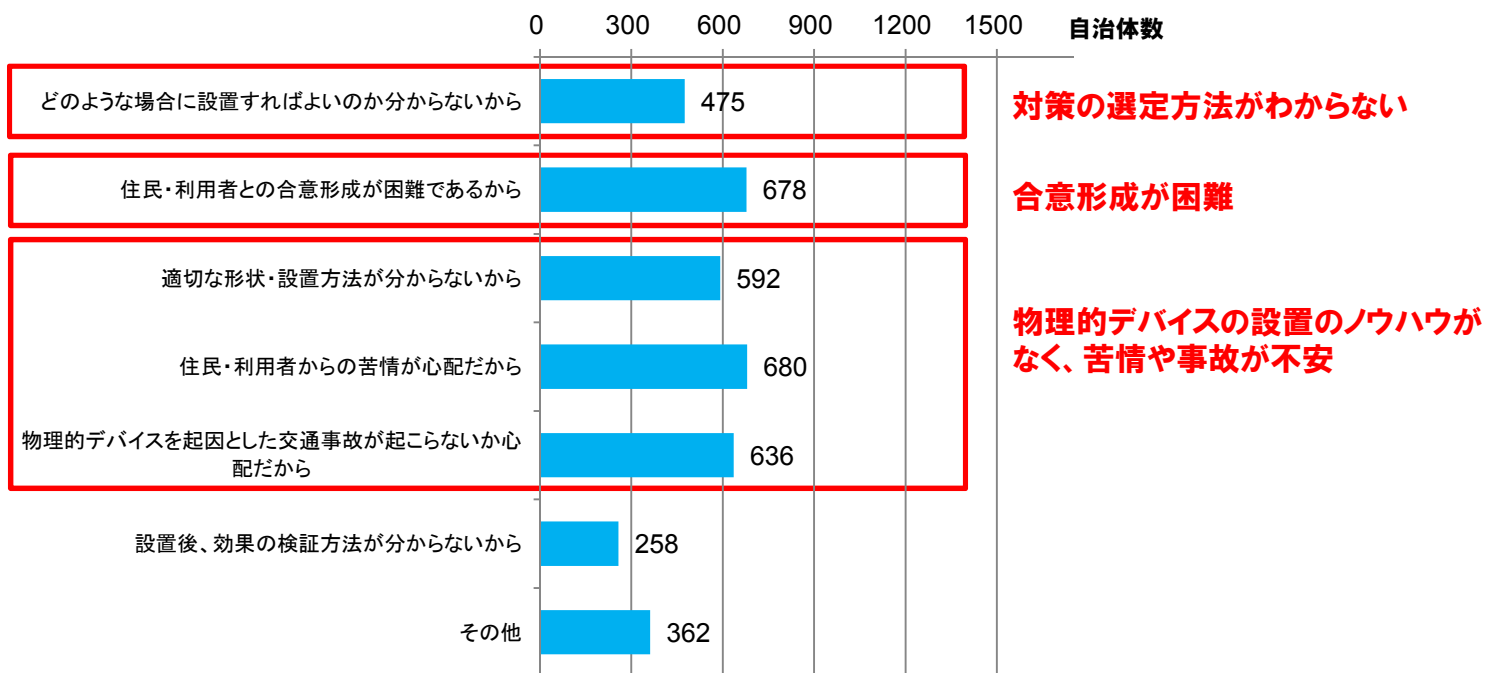
優先して検討する傾向にある対策

- ・路面標示
- ・カラー舗装(路側帯・交差点)
- ・区画線
- ・看板設置 等

検討が困難な理由

○「対策の選定方法がわからない」、「物理的デバイスに関するノウハウがなく苦情や事故が不安」、「合意形成が困難」が挙げられている。

■検討が困難な理由

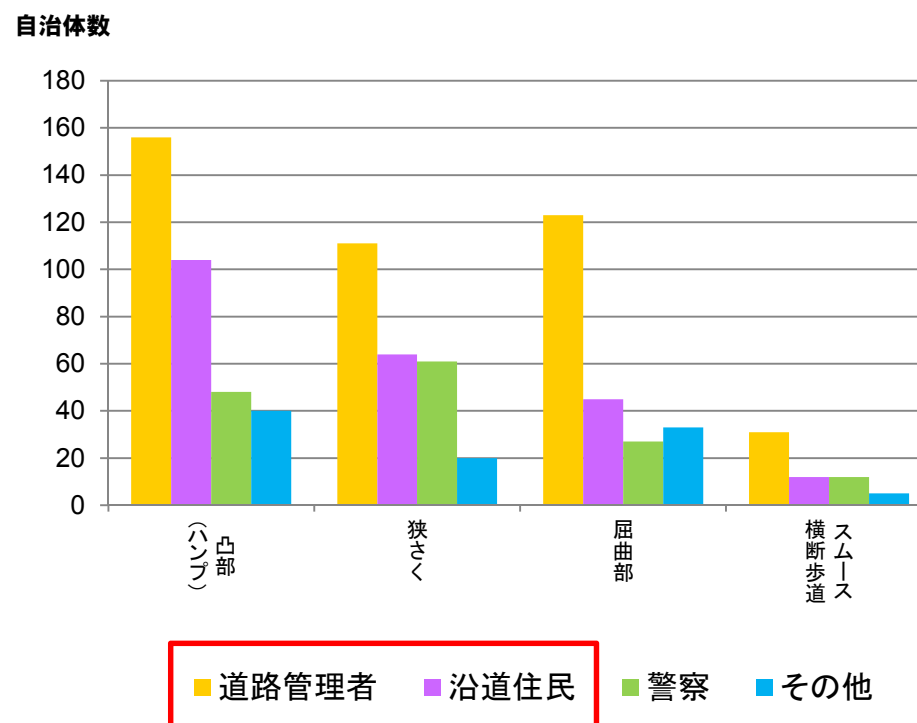


n=1632

物理的デバイスを積極的に検討しているかという問いに対して「どちらともいえない」「これ以外の対策を優先して検討する傾向にある」と回答した自治体数

○物理的デバイスの設置の発意は道路管理者のみならず沿道住民の割合も大きい。

■物理的デバイスの発意者

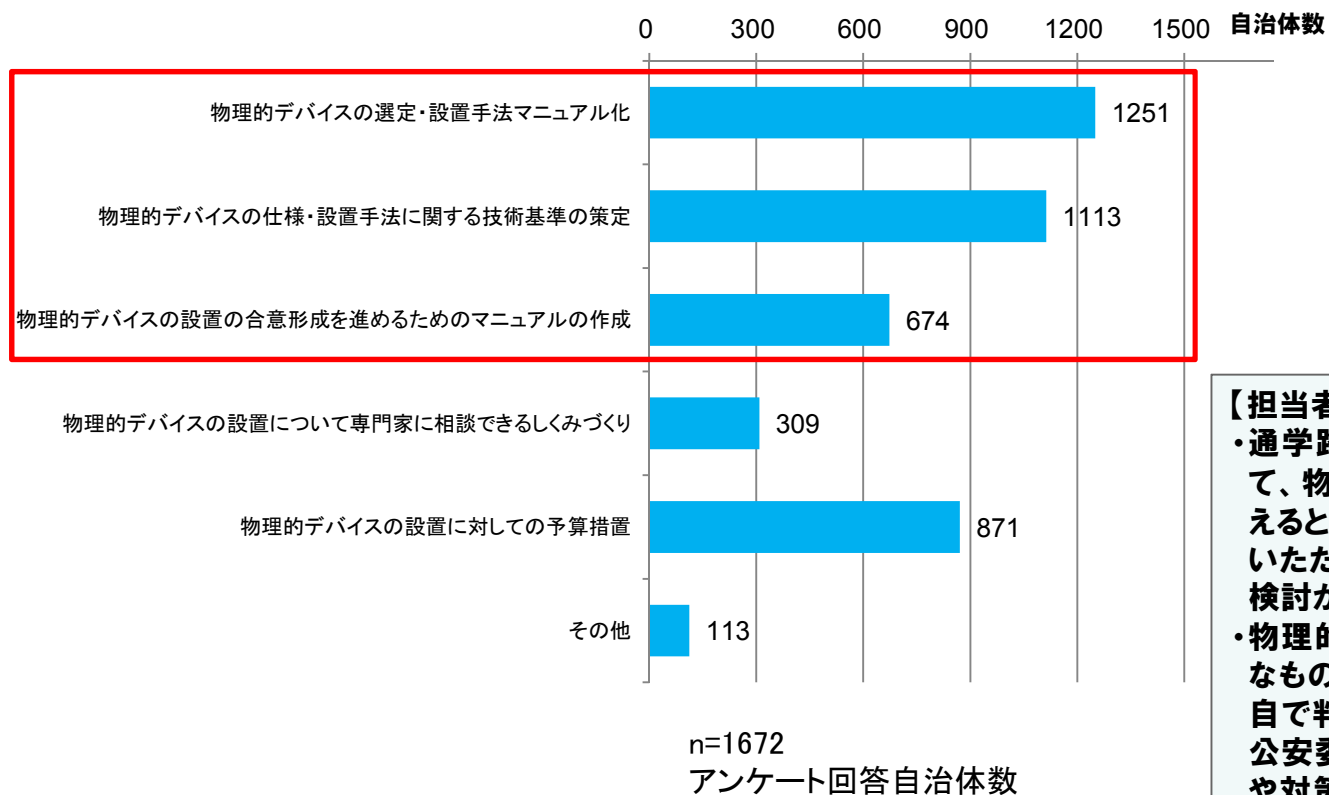


ハンプ(n=257)、狭さく(n=158)、シケイン(n=169)、スムーズ横断歩道(n=41)
物理的デバイスを導入した事例がある自治体数

対策の選定方法に関する課題(2)

- 多くの自治体が「物理的デバイスの選定・設置手法のマニュアル化」を挙げている。
- 対策選定・設置に関する手法が分からないことが課題である。

■設置を検討しやすくなるための方策(複数回答)



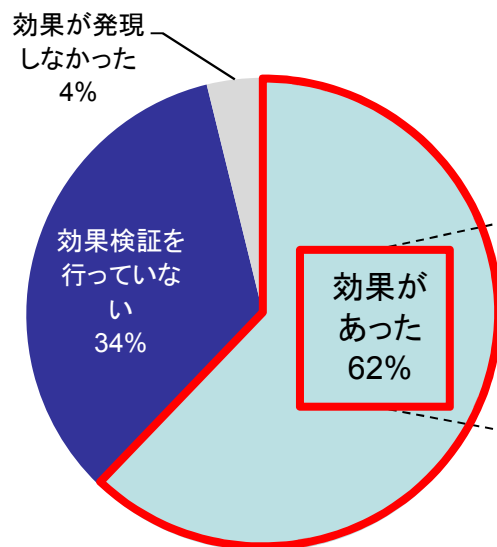
【担当者の意見】

- ・通学路対策やゾーン30などと並行して、物理的デバイスの設置要望は増えると思われる。設置基準を策定していただくことで、今後の対応や設置の検討がしやすくなる。
- ・物理的デバイスの設置基準など明確なものがないので、道路管理者が独自で判断し、設置することは難しい。公安委員会と協議しながら設置場所や対策方法を検討していかなければならず、積極的な設置に至っていない。

物理的デバイスに関する課題(1)

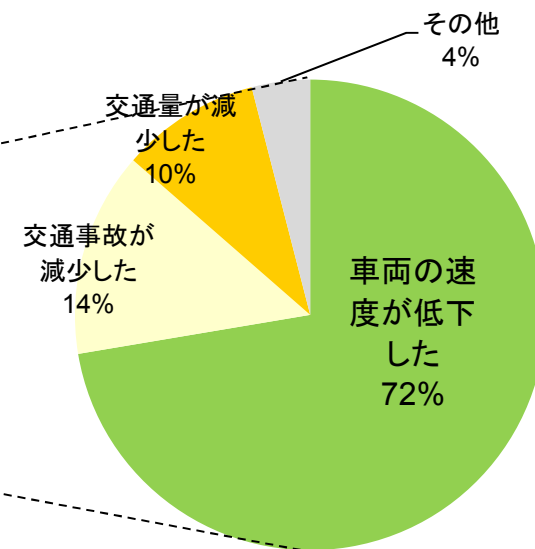
○物理的デバイスの設置により、車両の速度低下の効果が確認されている。

■物理的デバイスの効果の有無



n=256
 ハンプを導入した事例がある自治体数

■物理的デバイスの効果の内容

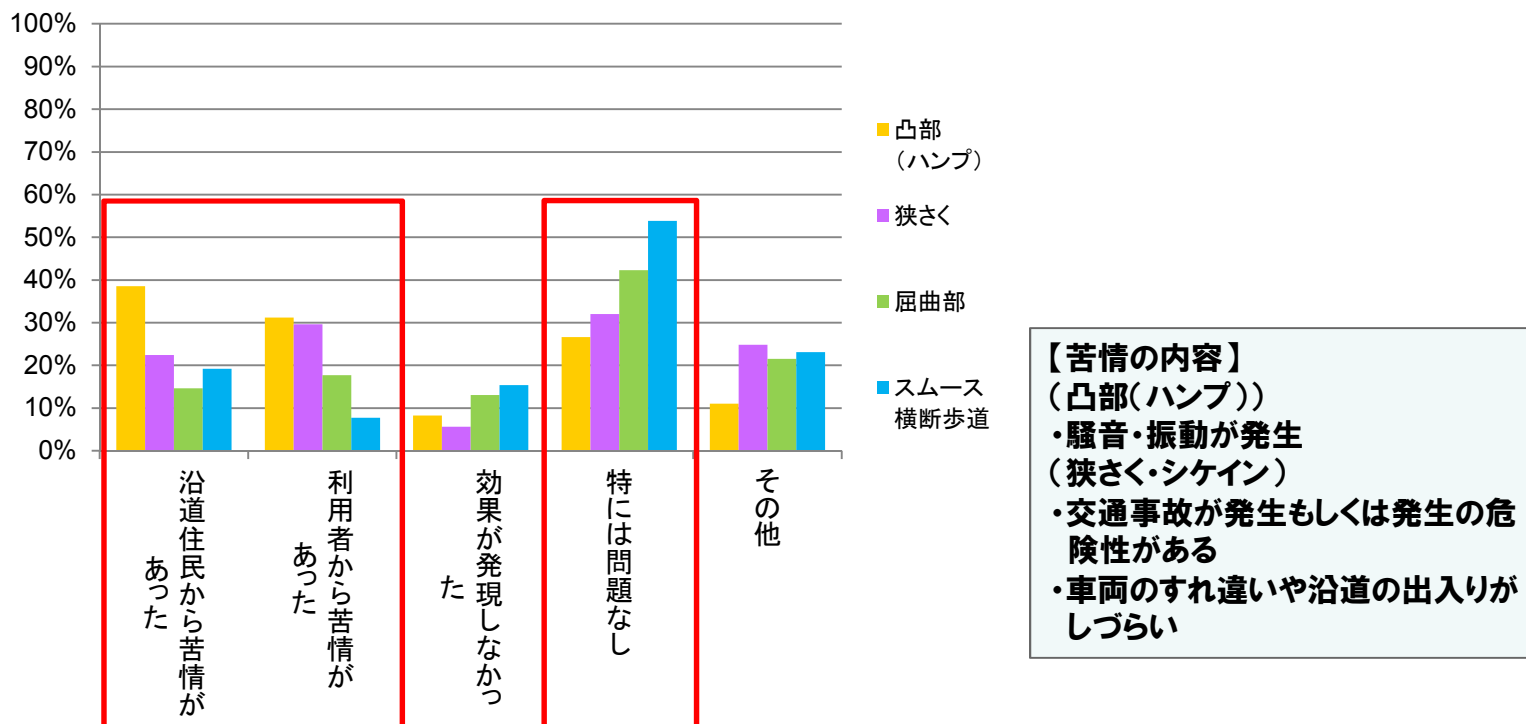


n=162
 ハンプを導入し、効果があった自治体数

物理的デバイスに関する課題(2)

- 沿道住民や利用者からハンプに対する騒音や振動への苦情、狭さく・シケインへの事故の危険性等の苦情を確認。
- 一方で苦情等がない事例も多い。

■設置後の課題発生状況

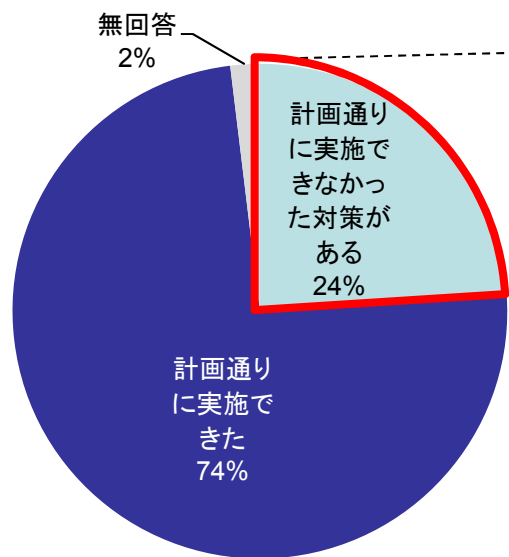


ハンプ(n=219)、狭さく(n=125)、シケイン(n=130)、スムース横断歩道(n=26)
 物理的デバイスを導入した事例がある自治体数

合意形成に関する課題(1)

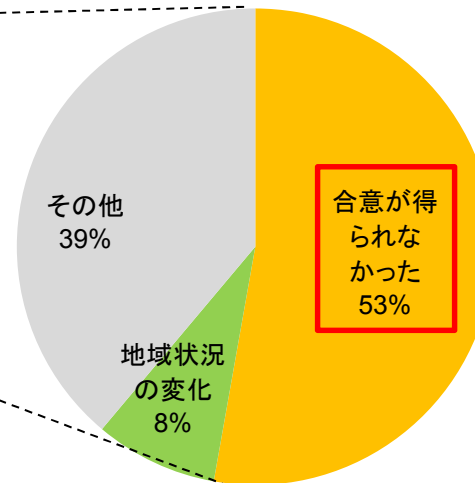
○計画通りに実施できなかった理由の半数は、合意が得られなかったため。

■立案した対策の実施状況



n=156
アンケート実施自治体数

■計画通り実施できなかった要因

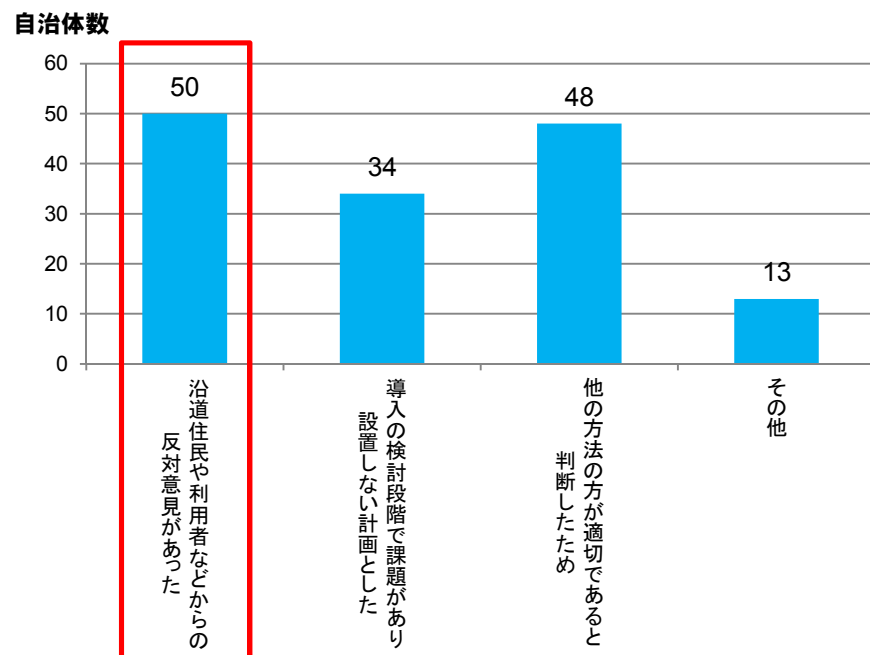


- 【実施できなかった対策】**
- ・ハンブ
 - ・狭さく
 - ・スムーズ横断歩道
 - ・道路拡幅が必要な事業 等

合意形成に関する課題(2)

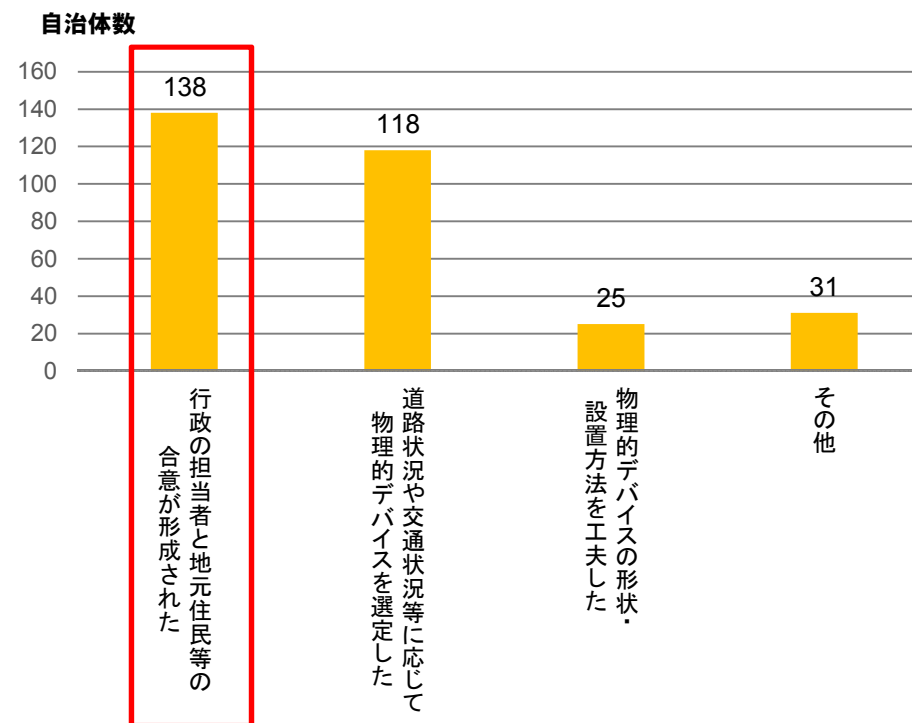
○沿道住民や利用者からの反対意見により設置に至らなかった事例が多い。

■ハンプの設置に至らなかった理由



n=133
ハンプの導入検討をしたが設置に至らなかった事例がある自治体数

■ハンプの設置に至った理由



n=250
ハンプを導入した事例がある自治体数

対策が進みつつあるも、更なる推進が必要

< 課題 >

適切な対策の
選定方法が
分からない

物理的デバイスの
取り扱いの
ノウハウがない

合意形成が困難

< 論点 >

(論点1) 生活道路対策方法の選定の考え方

(論点2) 生活道路における物理的デバイスの計画・設計の考え方

(論点3) 物理的デバイス等の設置にかかる理解の促進

第1回(3/6)

- 交通事故を中心とした生活道路を取り巻く状況
- 生活道路対策方法の選定の考え方【論点1】
- 生活道路における物理的デバイスの計画・設計の考え方【論点2】

第2回

- 生活道路対策方法の選定の考え方【論点1】
- 生活道路における物理的デバイスの計画・設計の考え方【論点2】
- 物理的デバイス等の設置にかかる理解の促進【論点3】

第3回

実務者のための生活道路対策のあり方に関するとりまとめ

- 生活道路における物理的デバイスの計画・設計の考え方【論点2】
- 物理的デバイス等の設置にかかる理解の促進【論点3】
- とりまとめ(案)

